

『政府は必ず嘘をつく 増補版』

2016年06月22日

エロ本雑誌には「袋とじ」が付いているのがある。堤未果氏が著した『政府は必ず嘘をつく 増補版』にも「袋とじ」が付いている。堤氏は米国社会の病理を分析、報告した本を多く上梓している。「政府は必ず嘘をつく」と聞いて、誰もが納得する。3・11の東日本大地震により福島原発事故が起き、放射能が拡散した。枝野幸男元官房長官は「ただちに健康に被害はありません」を繰り返し、流行語大賞にもノミネートされた。現在、被曝した子どもたちに甲状腺がんやその恐れのあることが報道されているが、原発事故との因果関係は明確でないと言いつつ続けている。健康被害はないという言葉を信じている人はいないだろう。福島にいる友人は子どもたちの現実を知り、鳥肌が立つと言っている。

堤氏は、9・11の同時多発テロ、スリーマイル島の原発事故をはじめ、米国で起こった諸々の原発事故やロシアのチェルノブイリ事故などで、両国政府が発表したことには嘘があると実例をあげて説明している。

先日、福島原発事故でのメルトダウンは分かっていたにもかかわらず、発表されたのは2ヶ月後であったのは、官邸から口止めされていたからだという報道があった。当時の政府・民主党の菅直元首相や枝野元官房長官は口止めしたことはない、必死に弁明している。緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム：略称スピーディの情報を事故直後に、米国には報告したが、国民には知らせなかった。政府、東京電力は国民を無視した嘘の報道を流していたことは確かである。

堤氏は、世界で起こった様々な事例を各国政府はどのように発表しているか、マスコミはどのように報道しているかを列挙し、その嘘を暴いている。嘘を見抜くためには、資金の流れを見定めることが必要である。座っている椅子を支えている人のために、事実を捻じ曲げて、口を開くからである。グローバル化した経済機構の中で、強化した多国籍企業は、今や政府もマスコミも支配下に置いている。政府もマスコミも、1%の人が99%の人々から収奪する大企業を追認し、自らの安泰を計るために嘘をつく。アルバート・アインシュタインの「資本主義が犯した最大の犯罪は、人間性を破壊したことです」という言葉が現実になっていると言う。また、イスラム諸国で起こっている諸問題に関して、「独裁政権（悪）と民主化（善）」という「アラブの春」を煽る西欧的なワンパターンの報道は事実を見誤ると言う指摘には耳を傾けるべきであろう。

問題の「袋とじ」には「国民に真実が閉ざされる中、これからの時代をどう生きていけばいいのか、その答えはこの中にある…」と、二つのことを書いている。一つは、1兆円の市場規模になる「マイナンバー（特定個人識別番号）」である。IT関連企業はホクホクである。マイナンバーがなくても、国民生活に何の不便もない。官僚の天下り先の大手IT関連企業を確保するだけである。漏洩によるリスクが著しく高まる。個人情報が一元化された制度は、先進国では、どこにも導入されていない。英国ではIDカード法は「人権侵害」として廃止されている。罰則もなく、交付申請しなくてOKである。

二つ目は「TPP」である。TPPは「関税と農業」に焦点が当てられてきた。関連文書は1,500頁にも及び、日本では公表されていない。堤氏は、TPPの最大ターゲットは日本の医療であると言う。特許制を利用し、薬価は大幅に上がる。そして、国民皆保険制度が骨抜きにされ、「命の沙汰も金次第」になっていくと分析している。

堤氏は、政府の嘘に抗うためには、相手側の意図を読み取る想像力と直感、そして、自らの頭で考え、判断し、意志を持つ市民になることだと結論づけている。